



札医の一層の活性化に向けて

中央区西支部 山崎 生久男

「医師会活動」という言葉が医師会員の中に存在すること自体が、全ての医師会員にとって、医師会が日常的な存在ではなく、またその活動が一部の特殊な人の活動であると認識されているという現実を如実に示している。

今年も3月15日、札医の第82回定時代議員会が札医会館で開催されました。例によって時間だけダラダラと費して余り活発とはいえない内容で、50周年を迎える札医の一層の活性化のために、若干の意見を記してみたいと思う。

第一にこの代議員会に出席していつも思うことは、会計現況報告、及び予算補正議案、次年度取支予算議案の数字の読み上げを何とか短縮～省略できないものだろうかということです。演壇上で発表されている役員、理事の先生には大変申し訳ないのですが、こう考えるのは私一人ではないと思います。折角代議員会に出席していて、その大半の時間を議論よりも、この数字の羅列を聞くことに費やしてしまい、代議員諸氏もすっかり疲れてしまい、早くこの会議が終了して欲しいと思う余り、十分な議論もする気がなくなってしまうというものです。もしかしたら暗にそういったことを期待しているのではないのだろうか穿った見方もしたくなります。このように会計報告、予算議案が長いのは以前の医師会内汚職事件以降という話も聞きますが、社団法人としての法律上の制約もあるものとは思うが何とか合法的、効率的な方法を検討していただきたいものと思います。

第二に折角選挙規約があるのだから、もっと実際に選挙をするべきだということです。候補者数が定数以上であったり、ありそうな時でも事前に調整したりせず、各々の候補者に意見を述べる機会を与え、どんどん各種選挙を実施し、

人事の刷新と活性化を計るべきと思う。実際代議員にとっては候補者が誰なのか、顔も意見も判らないで信任、選出している場合もあると思われる。選挙の際の色々な弊害を危惧する御意見もあろうかと思えます。私は常々札医の役員、理事の先生方は大変忙しく「大変な仕事をされているなあ」と感心して見ております。このような大変な仕事をする意欲を持っておられる先生達が、当選のために選挙を汚すということは私の頭ではとても考えられません。また選挙の実施、結果により医師会の団結が壊れるという意見もあるが、もともと現在の札医の状態が一致団結しているとはとてもいえないと思えます。

一方選挙の際には今の道医の代議員選挙のように、投票依頼の紙片を議場内で各支部の担当の先生がその支部の代議員に配布するという管理選挙には絶対反対です。このような選挙こそ活性化を妨げるのみでなく、代議員の選挙権をも損うものだと思います。

第三に札医の活動を市民に広く理解してもらい、医師会と市民との溝を埋めることを重要な課題とすべきと思えます。医師会が診療場面以外で市民と接する唯一といってもよい市民健康教育活動をより充実させ、大切にすべきと思えます。同時にこういった機会を利用して、短時間でよいから、医療保険改革等に関する医師会の立場を市民にアピールし、市民に理解してもらうということも必要と考えます。

以上暴論、愚論として反論も多いかと思いますが、こういった見方もあるということで、札医のより一層の活性化に向けて少しでも検討の材料になればと思い、オピニオンを述べさせていただきました。(札幌円山整形外科病院)